



表1 子宮内膜炎の多発農場の特徴

| 乾乳後期  | 分娩時   | 分娩直後~泌乳最盛期  |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>分娩2週前に牛群を変更している</li> <li>乾乳後期に過肥牛が多い</li> <li>乾乳後期に飼料摂取量が不足している牛が多い</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>分娩時に拘束されている</li> <li>分娩介助率が高い</li> <li>難産率が高い</li> <li>胎盤停滞発生率が高い</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>牛群全体が低Ca状態にある</li> <li>代謝病発生率が高い</li> <li>子宮炎発生率が高い</li> <li>削瘦牛が多い</li> </ul> |

図3 子宮内膜炎の予防指針

■ 重点項目

- 乾乳後期**
  - 牛群の変更を避ける (分娩前2週以内)
  - 泌乳中後期にBCS<sup>2)</sup>を3.00~3.25に調整
  - 乾乳期はそれを維持
- 分娩時**
  - 適切な分娩介助を行なう
  - 行動の自由度を確保する
- 分娩直後~産褥期<sup>1)</sup>**
  - 残食が出る程度の飼料給与および飼料の掃き寄せ
  - カルシウム製剤の適切な給与

①乾乳後期のストレス軽減、②分娩しやすくダメージを与えない管理、③栄養充足、ガポイント  
 発生要因が思いあたると、子宮の修復が悪いと感じた場合は、重点項目を中心に飼養管理を見直す。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。  
 道総研根釧農業試験場 研究部 乳牛グループ 小山 毅  
 電話 (0153) 72-2004 FAX (0153) 73-5329  
 E-mail: koyama-takeshi@hro.or.jp